

どなたでも応募できます

# エッセー・作文募集

## 第17回 小さな助け合いの物語賞

きっとあなたにもある、  
小さな助け合い。  
その実体験を教えてください。



応募期間  
2026年  
6月1日(月)～  
9月5日(土)  
※9月5日(土)必着

上位入賞4作品  
あなたの「実体験」が  
パラパラ漫画になります！  
中面の二次元コードから動画を視聴いただけます。

学校からの応募も増えています  
取りまとめ不要でも応募でき、  
学生個人で応募も可能です。  
学校からの団体応募には、  
参加賞をプレゼント  
くわしくは応募特設サイト、応募要項をご覧ください。

協賛 全国信用組合企業年金基金 後援 文部科学省・金融庁・金融経済教育推進機構

“しんくみバンク”信用組合は「助け合い」から生まれた金融機関。  
本コンクールを通じて「助け合い」の心が広まることを願っています。



## 第17回「小さな助け合いの物語賞」 エッセー・作文募集

テーマ	実体験をもとにした「小さな助け合い」 ● 誰かに助けもらったときの感謝の気持ち ● 助けたことで得られた豊かな心 <small>(家族や知人、同僚など身近な関係での助け合いは対象外となります)</small>				
文字数	800～1200文字				
応募期間	2026年6月1日(月)～9月5日(土) ※9月5日(土)必着				
応募区分	● 一般応募 ※学校で取りまとめ不要の提出方法が選択いただけます。 ● 学生・学校応募※ 詳しくは応募要項をご覧ください。				
応募方法	● WEB応募フォーム: 応募特設サイトより応募ください。 ● 郵送・メール: 専用の応募用紙を作品と併せて応募ください。 <small>※応募要項・応募用紙・WEB応募フォームは応募特設サイトに掲載しています。</small>				
応募先	郵送 〒105-7208 東京都港区東新橋1-7-1 汐留メディアタワー 8F 「小さな助け合いの物語賞」応募事務局 メール tasukeai@kyodonews.jp メールタイトルは「助け合い応募」としてください。				
賞の種類	<table border="1"> <tr> <td>作品賞</td> <td>           しんくみ大賞 最優秀賞 1編/賞状・副賞(商品券20万円分)            しんくみきずな賞 優秀賞 1編/賞状・副賞(商品券10万円分)            未来応援賞※ 青少年を対象に、今後の人生のプラスとなるような出会いや助け合いを描いた作品 2編/賞状・副賞(図書カード5万円分)  <small>※未来応援賞は、18歳以下(2027年4月1日時点の満年齢)に贈られる賞です。</small>            ハートウォーミング賞 助け合いから生じる人に対する思いやり、やさしさが感じられる作品 最大15編/賞状・副賞(商品券1万円分)         </td> </tr> <tr> <td>学校賞</td> <td>           徳育奨励賞※ 応募数の最も多かった学校 1校/賞状  <small>※徳育奨励賞は多くの学校に受賞機会を設けるため、受賞は1回限りです。</small> </td> </tr> </table>	作品賞	しんくみ大賞 最優秀賞 1編/賞状・副賞(商品券20万円分) しんくみきずな賞 優秀賞 1編/賞状・副賞(商品券10万円分) 未来応援賞※ 青少年を対象に、今後の人生のプラスとなるような出会いや助け合いを描いた作品 2編/賞状・副賞(図書カード5万円分) <small>※未来応援賞は、18歳以下(2027年4月1日時点の満年齢)に贈られる賞です。</small> ハートウォーミング賞 助け合いから生じる人に対する思いやり、やさしさが感じられる作品 最大15編/賞状・副賞(商品券1万円分)	学校賞	徳育奨励賞※ 応募数の最も多かった学校 1校/賞状 <small>※徳育奨励賞は多くの学校に受賞機会を設けるため、受賞は1回限りです。</small>
作品賞	しんくみ大賞 最優秀賞 1編/賞状・副賞(商品券20万円分) しんくみきずな賞 優秀賞 1編/賞状・副賞(商品券10万円分) 未来応援賞※ 青少年を対象に、今後の人生のプラスとなるような出会いや助け合いを描いた作品 2編/賞状・副賞(図書カード5万円分) <small>※未来応援賞は、18歳以下(2027年4月1日時点の満年齢)に贈られる賞です。</small> ハートウォーミング賞 助け合いから生じる人に対する思いやり、やさしさが感じられる作品 最大15編/賞状・副賞(商品券1万円分)				
学校賞	徳育奨励賞※ 応募数の最も多かった学校 1校/賞状 <small>※徳育奨励賞は多くの学校に受賞機会を設けるため、受賞は1回限りです。</small>				
選考・発表	審査結果は10月中に全国信用組合中央協会ホームページにて入賞者の作品・氏名を発表します。 上位入賞者は10月16日(金)に東京で行われる全国信用組合大会で表彰します。 <small>(徳育奨励賞も含む)</small>				
注意事項	応募要項の注意事項をご確認のうえ、応募ください。				
共催	一般社団法人 全国信用組合中央協会・全国信用協同組合連合会				
協賛	全国信用組合企業年金基金				
後援	文部科学省・金融庁・金融経済教育推進機構				

全国信用組合中央協会  
応募特設サイトはこちら



郵送・メールによる  
応募の際は、  
必ず応募用紙を  
添付してください。



だれかを助けたり、  
だれかに助けられたり。  
そのときに感じた、  
**やさしい**  
**気持ち**を  
お届けします。

上位入賞4作品

あなたの「実体験」が  
**パラパラ漫画**に  
なります！

しんくみバンク公式  
YouTubeチャンネルで公開！

パラパラ漫画の  
動画再生リストはこちら



しんくみ大賞

「ありがとう。」「に」「ありがとう。」 10代学生 篠原 銀成

ほくが小学生の頃の夏、母と買い物に出かけていると、坂道をおばあさんが歩いていました。おばあさんは、リュックを背負い、片手に日傘、片手にバッグをさげていた。母が、スピードをゆるめながら通り過ぎ、「暑いわなあ、乗せてあげようか。でも、逆方向だし、もしかしたら、急に話しかけるのは、迷惑かもしれないなあ。」  
と言っていた。でもほくは  
やっぱり気になり、  
「乗らないうちかもやけど、戻って。」  
と母に頼んだ。母は、  
「あとで、こうしとけば。って  
思うよりその方がいいな。」  
と来た道を戻り、おばあさんを追いかけた。  
「ごんには、もし良かったら乗れませんか。」  
と母が声をかけると、



「いえいえ、大丈夫です。ありがとう。」  
と言われた。ほくが、ドアを開けて、  
「乗ってください。一緒に帰りましょう。」  
と言った。  
「かんまんなかな。この世にもまだこんな人がいてよかったです。ありがとうございます。」  
と乗ってくれた。少しの間だったけど、おばあさんと一緒に乗った。いろいろな話を話してくれて、おられる時に、  
「迷惑をかけたでしょう。でも、私すごく嬉しかったし、楽しかった。ありがとう。」  
と言ってくれた。ほくも母も嬉しかった。  
しばらくして、宅配ボックスに手紙と商品券が入っていた。手紙には、あの時間が、久しぶりにすごく楽しく、嬉しい時間だったこと、人の優しさに触れて今も幸せな気持ちで過ごせていることが書かれてあった。母と相談して、一人では持ち帰るのは大変な物を買って届けようと、洗剤や醤油、ティッシュやトイレトペーパー等を買って届けに行った。おばあさんは、すごくおどろいた様子だったがと

ても喜んでくれた。なぜ家が分かったのか聞くと、ほくと母の会話を聞いて、近所の商店で、名前に銀とつく子で柔道をしている子をたずねて、家を教えてもらったと言っていた。ほくの家まで来るのも大変だったと思う。でも、また会えてすごく嬉しかった。それから、三回くらい手紙を書いたり、家に行ったりした。その度に、車に乗ったことの話をし、出会えたことで今は寂しくないと喜んでくれた。  
一年経たないくらいにおばあさんは、妹さんのいる京都に引越してしまっただが、今もほくと母はおばあさんの家の近くを通ると、おばあさんを思い出す。どうしようか迷った時には、やめずに行動する方がいいこと、「ありがとう」には、いろんな種類があり、重みがあること、そして、「ありがとう」と言う側より言われた側の方が得るものが多く、本当は「こちらこそ、ありがとうございます」になることを感じた出来事だった。これからは、誰かの役に立てるかもしれない場面に出会ったら、迷わず行動できる人になりたい。

しんくみきずな賞

にんじやはあなたのそばにいる 40代 専門職 柴谷 千裕

満員電車から解放され大勢が帰路を急ぎ階段を降りていく中、白杖をついた高齢者の男性をその中に見つけたのは偶然だった。その駅の階段は長く急である。そして周囲は帰路を急ぐ人たちが駆け足で降りていく中、その方は少しおぼつかない歩調で階段を降りようとしているところであった。  
「ぶつかられたら危ない」そう思った私は咄嗟にいつでも彼を支えられるように足音を立てないように歩調を合わせ、手すりや白杖でゆっくりと階段を降りる彼の横に並んだ。その時、スーツを着た中年の男性がおもむろに彼の降りる先の段に立ち、ゆっくりと降り始める。同時にイヤホンをつけた学生らしき男性も白杖をついた方の上の段を歩調を合わせて降り始めた。

私たちは互いに視線も合わせない。それでも意図は同じだと感じた。サラリーマンの男性は白杖を止めた方が一足を滑らせた時にすぐ下で受け止めようとしている。学生の彼は上からもほとんど降りてくる大勢の人たちが白杖をついた方

にぶつからないように守ろうとしている。そして横に並んで歩調を合わせた私は、人混みから守りつつ足を滑らせた時に備えて支えられるようにしている。年代も性別も違う、見ず知らずの3人による白杖の高齢者の方を守るフォーメーションの完成であった。自身の力で降りようとしている白杖の方を見守りつつ、自分たちの存在は彼に気づかせない。まさしく現代の忍者である。急で長い階段で彼が足元を探る度に、時折ぶらつきそうになる度にフォーメーションを築いた3人の体がピクリと動く。ゆっくりとした歩調で降りている間にいつの間にか帰宅を急ぐ人たちはほとんどが階段をすでに降り切っていた。それでもこのフォーメー



ションは崩れない。しかし、誰も互いに顔を合わせようとはしない。忍者は皆プロフェッショナルである。よ。うだ。  
そして、ようやく彼が長い階段を降り切った時、そのフォーメーションは誰ともなく解散した。全員、何事もなかったようにバラバラの歩調でそれぞれに帰路についていく。誰も白杖をついた方からのお礼は求めていない。忍者は存在を気づかれないといけないのである。助けようと勝手に体が動いた結果の見ず知らずの3人のフォーメーション。  
現代は他人に関心がなく、冷たい世の中だとされているが、あなたの傍には必ずおせっかいな忍者が潜んでいると私は思う。そして私の傍にもきっと無関心な顔をして何かあれば助けようとしてくれる忍者たちは存在してくれているのだらう。ただ、気づかれないように潜んでいるだけで、声を掛ける助け合いもあれば、優しく見守る助け合いもある。そんな経験をした何事も無い1日だった。

他入賞作品はこちらをご覧ください

